

2017年4月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度をみると、極うずの中心はカナダ北部～西・中央シベリアに位置した。アラスカの北西海上でブロッキング高気圧がみられ、太平洋の中緯度域では帯状に負偏差となった。北米東部からユーラシア大陸、日本付近にかけて波列パターンが明瞭だった。200 hPa 風速をみると、寒帯前線ジェット気流はヨーロッパ北部～中央シベリアで明瞭となった。また、亜熱帯ジェット気流は日本付近～東海上で平年と比べて強く、太平洋中・東部では平年の位置と比べて南寄りを流れた。850 hPa 気温はユーラシア大陸東部、米国東部で高温偏差、ヨーロッパ北部～ロシア西部で低温偏差だった。帯状平均した東西風は、北半球では北緯60度帯で寒帯前線ジェット気流が平年より強く、亜熱帯ジェット気流は平年の位置と比べて北偏した。帯状平均した気温は、対流圏の熱帯域や中緯度域で平年と比べて高く、対流圏の全球平均で平年より高い状態が続いている。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、インドネシア付近及び南太平洋で活発、北太平洋中・東部及びインド洋で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の中ごろにインドネシア付近～大西洋を東進したほか、下旬には別の活発な位相がインドネシア付近～太平洋を東進した。対流圏上層では、インド洋東部～太平洋西部で南北半球対の高気圧性循環が平年

より強かった。対流圏下層では、南インド洋で低気圧性循環偏差となった。太平洋の亜熱帯高気圧は小笠原諸島の東で平年より強かった。熱帯域の海面気圧はインド洋～太平洋西部で正偏差、太平洋中・東部で負偏差となり、南方振動指数は-0.4だった。

世界の天候

2017年4月の世界の月平均気温偏差は+0.38°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、2番目に高い値となった。4月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.76°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

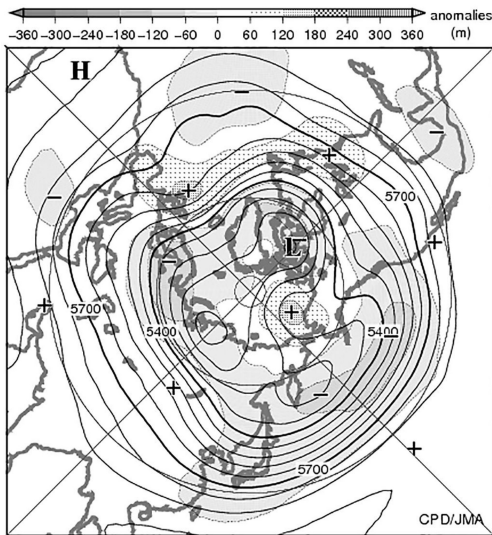
- 東シベリアで異常高温となった。
- イベリア半島～アフリカ北西部で異常高温となった。
- 米国東部で異常高温となり、米国東部～南部で異常多雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

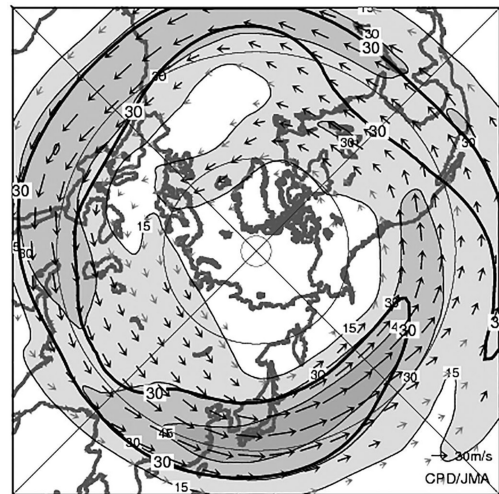
「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



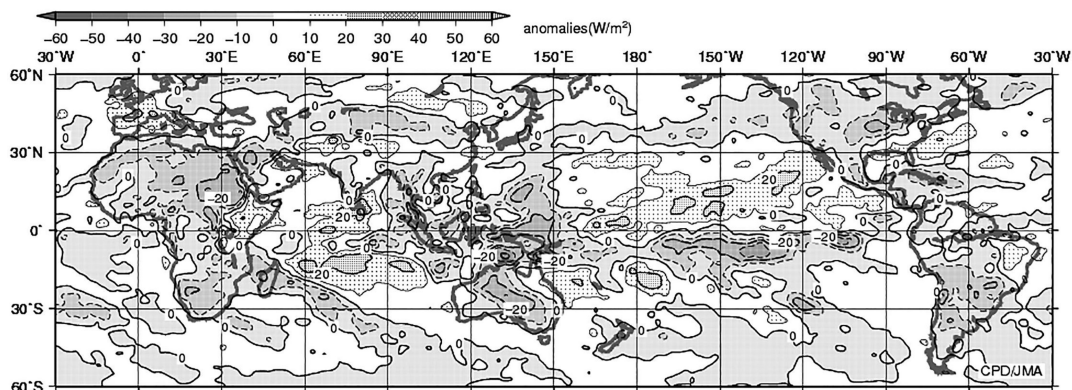
2017年4月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

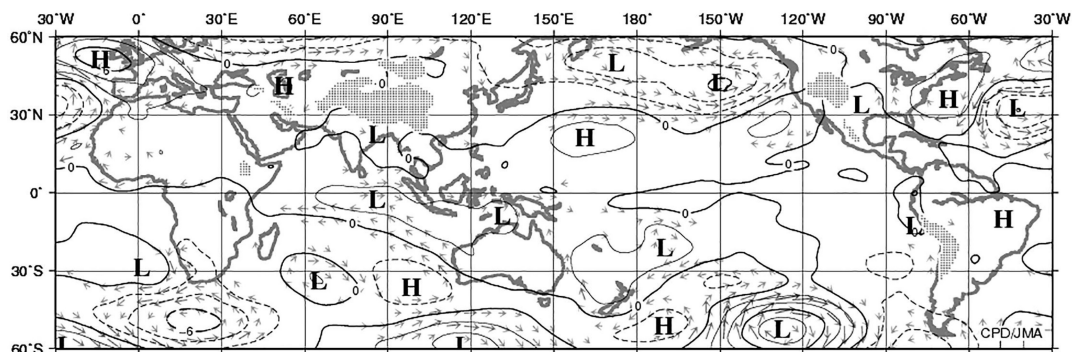


2017年4月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル

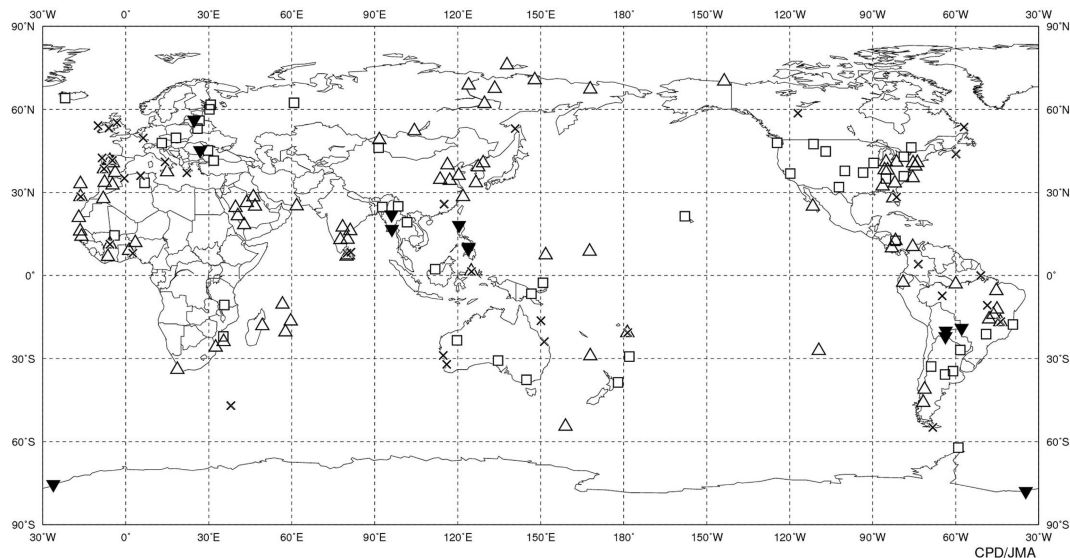
等値線間隔は15 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は30 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2017年4月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋
 大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。平年値は1981~2010年の平均値。



2017年4月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。平年値は1981~2010年の平均値。



2017年4月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。